

令和7年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 明和中 学校
校長氏名	山本 和良
作成日	令和 8年 2月 6日

1 教育目標

人間尊重の精神を基本にして、知・徳・体の調和のある生徒の育成				
	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	学校評価アンケートでの「授業が楽しい」「授業内容がよくわかる」が80%以上を目指す。	学校評価アンケートの「私は、思いやりやさしさの気持ちを大切にしている」という項目が90%という値である。大切さを、はっきりと意識させたい。	体育の実技授業についての、『主体的に学習に取り組む態度』の観点評価がAを半分以上に。	学校開放月間の期間中に学校行事や授業公開による地域への取組の充実で、学校評価アンケートにおいて70%以上の肯定的評価を得る。
重点目標	○学習指導の工夫・改善と総合的な学力向上をめざす『明和中学校の授業づくり』のさらなる充実。	○学級づくりを通し、自分と仲間を大切にし、よりよく生きていく力の育成。 ○道徳教育の充実	○保健体育科の授業の工夫・改善による心と体の調和的育成。 ○健康安全教育の充実 ○基本的生活習慣の確立	○学校行事について地域や保護者へHP等を活用し情報を発信していく。 ○地域行事活動への参加を進めていく。
取組の状況【D】	◎各教科担任が「わかる授業」「参加する授業」「楽しい授業」等、主体的・対話的で深い学びを目指し、授業力を高める。 ◎教員各個人の授業力改善に、より効果的な授業スタイルを確立するために、計画的に授業研究・研究協議を実施することで、授業力向上により生徒の学力向上を目指す。	◎「自分と仲間を大切にし、よりよく生きていく学級」をテーマに学級づくりの具体的な指導方法等を含めた研修を実施し担任力を高める。 ◎道徳教育充実のため、生徒の周りにある身近な課題を見つけ、実際の授業改善に向けての取組みを進める。 ○学校行事等での目標及び指導方法を明確にし、共有していく。	◎保健体育の学習に対して校内研修や勉強会を持つことにより、心と体の調和的発達を図る。 ○養護教諭を中心に健康安全教育の実施を図る。 ○思春期にみられる心と体のアンバランスさの道理を指導する。	◎保健だより等の各担当からの便り、ホームページでの発信、メールの独自配信等積極的に情報を発信する。 ○学校開放月間の充実をかかるとともに、より効果的な学校開放の在り方を検討する。 ○学校評価の取組みを有効に活かすことで、保護者・地域・学校の信頼感を深める。
取組の成果と課題【C】	学校評価アンケートの結果を見ると、「授業が楽しい」では、全体で74%の結果になった。「学習内容をよく理解できている」では、全体で70%の結果になった。この項目の全体で、目標値目標を達成させるために生徒の状況に合った進め方をしていきたい。	『私は、思いやりやさしさの気持ちを大切にしている』という項目において、肯定的な評価が、全体で90%の高い値になっている。友人関係でつぎのステップとして、「思いやりやさしさの気持ちを伝える」ことが大切だと意識を持たせたい。	体育の授業での『主体的に学習に取り組む態度』の観点については、評価が高く、主体的に授業に取り組む生徒は多い。また、養護教諭が保健だよりを毎月発行し、保健委員会と協力して各種啓発のポスターを掲示するなどの活動も継続していきたい。 昼休みなど、休憩時間に体を動かす生徒が増えてきている。	保護者。地域との連携・協力については、教職員の意識としては74%が肯定的な評価をしている。 本年度は徐々に地域学習に取り組むことで進めてきた。今後はさらに保護者や地域の方々の協力を得て学校と地域との信頼関係を深めていく。
改善方法【A】	学力の向上は、授業の工夫・改善、授業力の向上が大切である。本校では、生徒の実態に応じた『明和中学校授業づくり』をバージョンアップさせ取組みを継続していかなければならないと考えている。	生徒が日常的に行っている友だちとの関り、先生との関りから、学級活動・生徒会活動、学校行事さらには部活動まで含めた学校での活動が、生徒の心の発達を支えている。学習活動や行事の「ねらい」を確認しながら『豊かな心の育成』に臨んでいきたい。	健やかな体の育成の中心は、保健体育の授業であると考えています。 保健体育科の指導力向上により授業を充実し、生徒の体力向上や日常生活で健康についての力をつけさせていきたい。 全員給食が始まるので、食育の観点を取り入れていく。	本校は、地域の伝統文化を肌で感じることのできる非常にいい立地条件に恵まれている。 この環境を効果的に活かしながら、地域との協力をさらに前面に出し、計画立案・実践を行っていきたい。

3 その他の課題

--